

2025年6月30日

学校法人三幸学園
名古屋こども専門学校
校長 向井 潔 殿

学校関係者評価委員会
委員長 下里 和正

学校関係者評価委員会実施報告

2024年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 下里 和正 (社会福祉法人多加良浦学園 たからうらこども園 園長)
- ② 坂野 航 (第2期卒業生)
- ③ 安藤 壮平 (飛鳥未来きぼう高等学校 名駅伏見キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年6月24日(会場 名古屋こども専門学校 別館503教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024年度 学校法人 三幸学園名古屋こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本田和寛

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 下里和正

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・社会に貢献できる人材となるために、学生に向けて園長講話等、(社会)現場の話をしていただく機会を作る。

⇒例年に比べ、連盟の講話が増加したことにより、学生と園長先生が関わる機会が増加した。

また男性園長先生による、男子学生限定の講話も開催したことにより、男子学生の不安を軽減することができた。

・案内されている研修だけでなく、常勤メンバーにおける研修会の実施に努める。

⇒現場経験のメンバーによる保育研修や役職者以上によるメンバー研修を行った。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・ 学園理念・目的・育成人材像について、保護者および学生への周知は行ったが、実際学生が意識をして学校生活には臨めていない。
- ・ 各学科の教育目標、育成人材像について学科として目標設定は行っているが、業界ニーズと教育機関のギャップがあり、明確な方向づけには至っていない。

② 今後の改善方策

- ・ 育成人材像に対して、園連携や卒業生講話などを通して、保護者および学生が理解できる環境を設定する。
- ・ 教員が現学生の特徴を理解し、業界とのギャップを埋められるよう現場へ足を運び、リアルな情報を提供できるよう取り組みを検討する。
- ・ 学生が現場に足を運び、保育現場の声をリアルに体感できるような環境の設定を検討する。
- ・ 保護者とのリレーション向上として、スクルアプリを導入する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 保護者の方に周知するにあたってどのような方法をとっているのかを知りたい。（下里委員）
- ・ 実際にオンラインで実施する場合は、対面で実施するよりも伝える力が弱くなるのではないかと懸念が考えられる。（下里委員）
- ・ 高校は入学時点では未成年であるため保護者に決定権があることもあり、できる限り保護者の方に来校いただくように伝えている。名古屋地区においては保護者全体で集まることよりは個で対応することが多い。3年時には進路ガイダンスとして実施することもある。（安藤委員）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・ 新人事制度が運用開始となったが、制度の理解度がまだ低いこともあり個の成長につなげきれていない。

② 今後の改善方策

- ・ 評価者面談を通して、仕事に対する個人の評価基準や役割について明確に伝え、個の能力を向上できる取り組みを検討する。

③ 特記事項

- ・ 特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 園では年功序列の面が大きい。ただし、現在は若手だからこそできること、ベテランだからこそできることもあるため、そういった得意を引き出せるように評価をしていきたい。しかしながら、変えていくことで長く勤めてきた先生から様々な声があるのは事実。その点においては、園長などがうまく伝えていく必要があると考える。（下里委員）
- ・ 1年に一度、園での自分の役割や立ち位置の確認を行う機会がある。本部と園長に共有はされるが、実際にそれをもとにした面談はないのが現状。（坂野委員）
- ・ 学校内で評価されるものとしては通知表などになるが、実際に働くところと勉強できるということが評価に繋がるわけでないことを知った。個人的には実習でもらう評価が自分の外部からの評価となるためそこを大切にしていた。現場でもらった意見が一番響いた。（坂野委員）
- ・ 現在の学生の様子を見ても、自己評価と他者評価のずれは大きいと感じる。頑張る＝評価に繋がることではなく、期待値や役割が自分の中で納得できているかを確認するようにしている。頑張りは認めた上で、自分自身は頑張ることと周りへ与える影響をどう与えるは別であることを伝え、考えられるようにしている。（安藤委員）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・ 新卒、中途職員の中でも現場経験を有していない職員もいるため保育現場を見据えたサポートが十分に行えていなかった。
- ・ 資格担当および資格申請年度を担当している担任は、免許取得までの指導体制が行えていたが、その他職員に関しては、関わる機会が少ないこともあり十分に知識を有してサポートが行えていない。

② 今後の改善方策

- ・ 職員に対しての現場理解の場を設定する。
園長先生や現場の方にお越しいただき、保育の職場環境や求める人物像などについての研修を行う。
- ・ 国家資格取得方法の認識統一や指導体制についてのすり合わせを行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 実習巡回の際、学校教員として保育分野の知見は持っていた方がよいこともあるが、園で話す際には、実習生のことをしっかり話を話せるようにしてもらいたい。学校の教員は精神的なサポートをしてもらうことが大切である。学生自身への理解を深めてほしい。(下里委員)
- ・ 3月には新人研修の実施を行っている。その後、年間を通して外部研修も行っている。またその時の課題を克服できる研修を設定している。(下里委員)
- ・ 愛知県内のキャリアアップ研修は園長と相談の上、自分自身で申し込みを行う。自身が担当しているクラスと同じ環境同士のかかわりの場もある。2年目には他園の見学をさせてもらう機会もあった。実際に他の園の様子を見ることで、様々な保育方法を吸収する機会となり、広い視野を持てる経験ができるとよいと感じる(坂野委員)

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

- ・ 人間関係の構築に不安を抱える学生が増加しており、学校側が入り込めない範囲での退学理由となってしまうケースが発生している。

② 今後の改善方策

- ・ 職員間のリレーションを向上させ、退学予備群への対応方法を明確化させる。
- ・ 専門学校での学びだけではなく、入学までにどのような教育環境が整えられているのかなどの理解をするために姉妹校連携を強化し、研修の実施を検討する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 現在も保育現場では、人間関係での問題は多々発生している。入職してから自分を取り巻く状況が変わることが当たり前であることを伝えるようにしている。今まで自分が過ごしてきた環境とは異なることへの理解を深める必要はある。(下里委員)
- ・ 園での配置変更は実際難しいことが多いが、保護者や子どもに大きな影響があるときには変更も検討するようにしている。(下里委員)
- ・ 原則、変更はできないが実際に変更を行った事例もある。保護者が様々フォローしてくださることも多い。(坂野委員)
- ・ 教育機関においても人間関係の問題が多くある状況。通信制高校出身者なのか全日制高校出身者なのかにもよる。必要に応じて教員の介入もある。そもそも介入しない高校もある。実際に退学をする学生はどういった学生が多いのか。(安藤委員)
- ・ こちらで関係性をコントロールすることは難しい状況。自分で解決する機会でもあるため学ぶこともあるのではないかと考える。ただし、介入するのは最後の機会でもあるため、同じ目線ではなく一歩先を見て介入できるとよいのではないかと。(安藤委員)
- ・ 対応の研修の実施はしないが、園長から本人に対し面談等で実際の状況を伝えることはある。(下里委員)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・ 保護者連携は実施しているが、本人・保護者の関係性からサポートをしきれない場合がある。
- ・ 保護者が教育に対して入り込んでしまう場合、学生本人の気持ちが尊重されず本音を引き出せないことがある。

② 今後の改善方策

- ・ 保護者連携がスムーズに行われなかった場合には、スクールカウンセラーの紹介など専門家へつなぎ、学生のサポートを行う。
- ・ 保護者と話をする場合、目的と着地点を明確にして連絡を行う。
- ・ 中途退学者が就職を望む場合は、必要に応じて本人へのサポートおよび保護者へも連絡を行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 子ども間でのトラブルの場合には園側がしっかり対応するように心がけているが、学校の場合は年齢も年齢であるため学生間で解決できるようにしていくべきではある。（下里委員）
- ・ 保護者対応は研修でも実施している。また他園と関わる際には、他がどのように対応しているかを知る機会もある。（坂野委員）
- ・ お叱りいただいたときに必要であれば改善を行うことはしていくが、理不尽な対応もある現状。ただその際に正論をぶつけてもいけないため、もらった意見の中で改善することで他の保護者にも良いことは改善していく。（安藤委員）
- ・ 職員に求められる力は、常日頃変わっていつているため、何か教育環境の中で大きな変化を求めることはない。（下里委員）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・ 任意選択科目ではあるが、インターンシップを希望する学生が少ない。

② 今後の改善方策

- ・ 就職活動との連携や分野特性を把握できる機会であることを伝え、インターン希望者の増加に努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 年に何人か受け入れは行っている。高校生が来ることも多く、実際に現場を知る機会の提供として力を入れている。(下里委員)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評4価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・ 入学前と入学後のギャップが発生しないよう募集活動を行っていく。
- ・ 保育分野を目指す学生の減少。

② 今後の改善方策

- ・ SNSを通じて、学校生活のリアルを発信する。
- ・ オープンキャンパスでの体験内容では、かけ離れた内容ではなく実際の授業でも行われる内容を実施する。
- ・ 内部施策だけではなく、保育現場と連携し保育の魅力発信に努める。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・ 多少ではあるがボランティアを通して学校周辺での活動は行えているが、学校を使用しての開催は実施できていない

② 今後の改善方策

- ・ 地域の方々を招待できるようなイベントの考案および実施を検討

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(学校より)

2024 年度を振り返り、退学者数の低減に課題を確認し入学前と入学後のギャップを感じないよう本校教育理念を広報活動で伝えつつ、教育の質を担保し今一度業界に求められる学びを提供していきたい。

併せて、今後もより多くの卒業生を保育業界へ輩出でできるよう、業界ニーズを理解した上で就職支援を行っていく必要性を再確認した。そして、社会・地域から必要とされる学校でありつづけるために、引き続き地域連携を強化し、学生ひとりひとりの努力に寄り添っていくこととする。

(委員より総評)

教育環境を受け取る学生側と、情報のすり合わせを行っていくことが重要だと感じる事ができた。

実習や就職を受け入れる側としても現在の学生がどのようなことを希望していて、実際どのようなことをしたいのかを知っておく必要があると感じた。学生がどのような場面で成長実感を経験するのか等、学校側と適宜共有をしていきたい。今後も引き続きインプットの場と、アウトプットの場の連携をより密に行い、業界全体の底上げをしていっていただきたく思う。